

四国8の字 ネットワーク



国土交通省四国地方整備局
道路部長

おぎ の ひろ ゆき
荻野 宏之

はつめい

令和6年8月の日向灘を震源とする地震により、初の「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」が発表され、令和7年1月には同じく日向灘を震源とする地震により「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」が開催されました。

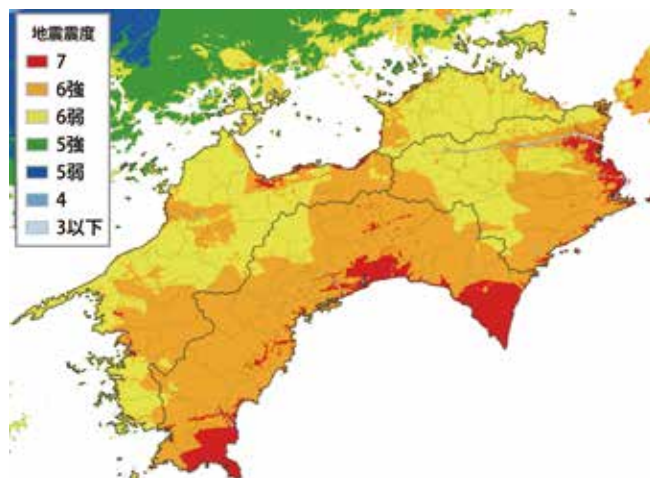
また、政府の地震調査委員会において、南海トラフ巨大地震が今後30年以内に起きる確率について、これまでの「70%から80%」が「80%程度」に引き上げられるなど、南海トラフ地震発生の可能性が高まっています。

四国地方では、南海トラフ地震発生時に震度7〜6弱までの揺れや地震発生に伴う津波等により、太平洋沿岸地域を中心とした広域的な浸水及び交通ネットワークの寸断が危惧されています。

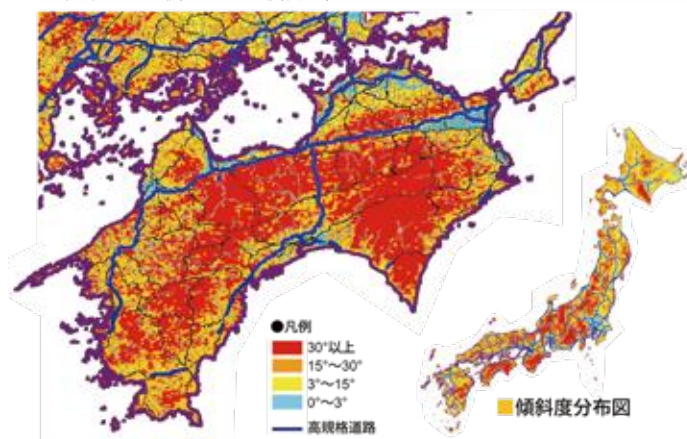
さらに、土石流や崖崩れが発生する可能性のある地域が約8割を占めるなど全国で最も急峻な地形を有しており、気候変動に伴う大雨や台風によつてもたらされる気象災害も年々激甚化・頻発化しています。

一方、地域情勢に目を向けると、四国の人口減少は全国と比べ約25年早く進行しており、人口減少・少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少が大きな課題となっています。

四国の産業構造は、全国に比べ農

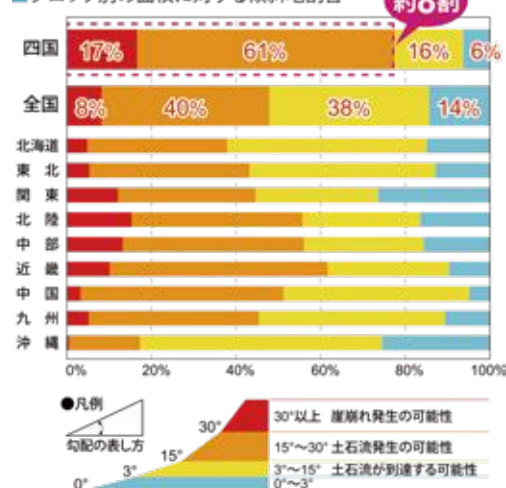


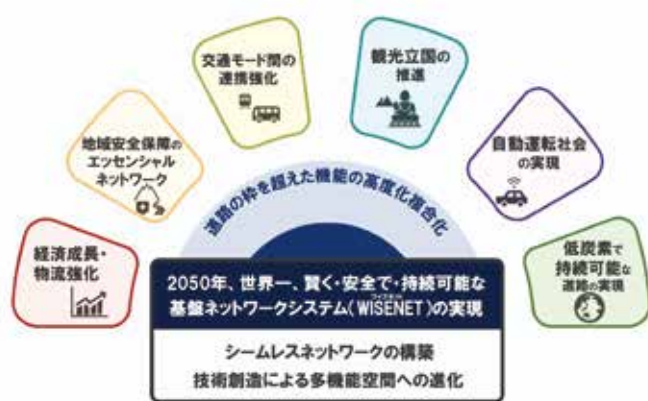
▲南海トラフ地震による地表震度分布



▲傾斜度分布

■ブロック別の面積に対する傾斜地割合





▲ WISENET2050 のコンセプト

る「四国8の字ネットワーク」の整備を推進しています。

路線概要

「四国8の字ネットワーク」とは、四国4県の県庁所在地を連結する高速交通ネットワークの愛称で、目指すネットワークの形が「8の字」であることから名付けられました。

「四国8の字ネットワーク」は、「WISENET2050」のコンセプトである「地域安全保障のエンセンシャルネットワーク」「経済成長・物流強化」「観光立国の推進」などに位置づけており、地方の中心都市を効

率的に連結する「速達性」、南海トラフ地震発生時の緊急輸送道路の確保、豪雨・洪水時においても寸断することのない安心・安全なネットワークを確立する「安全性」などの効果が期待されます。

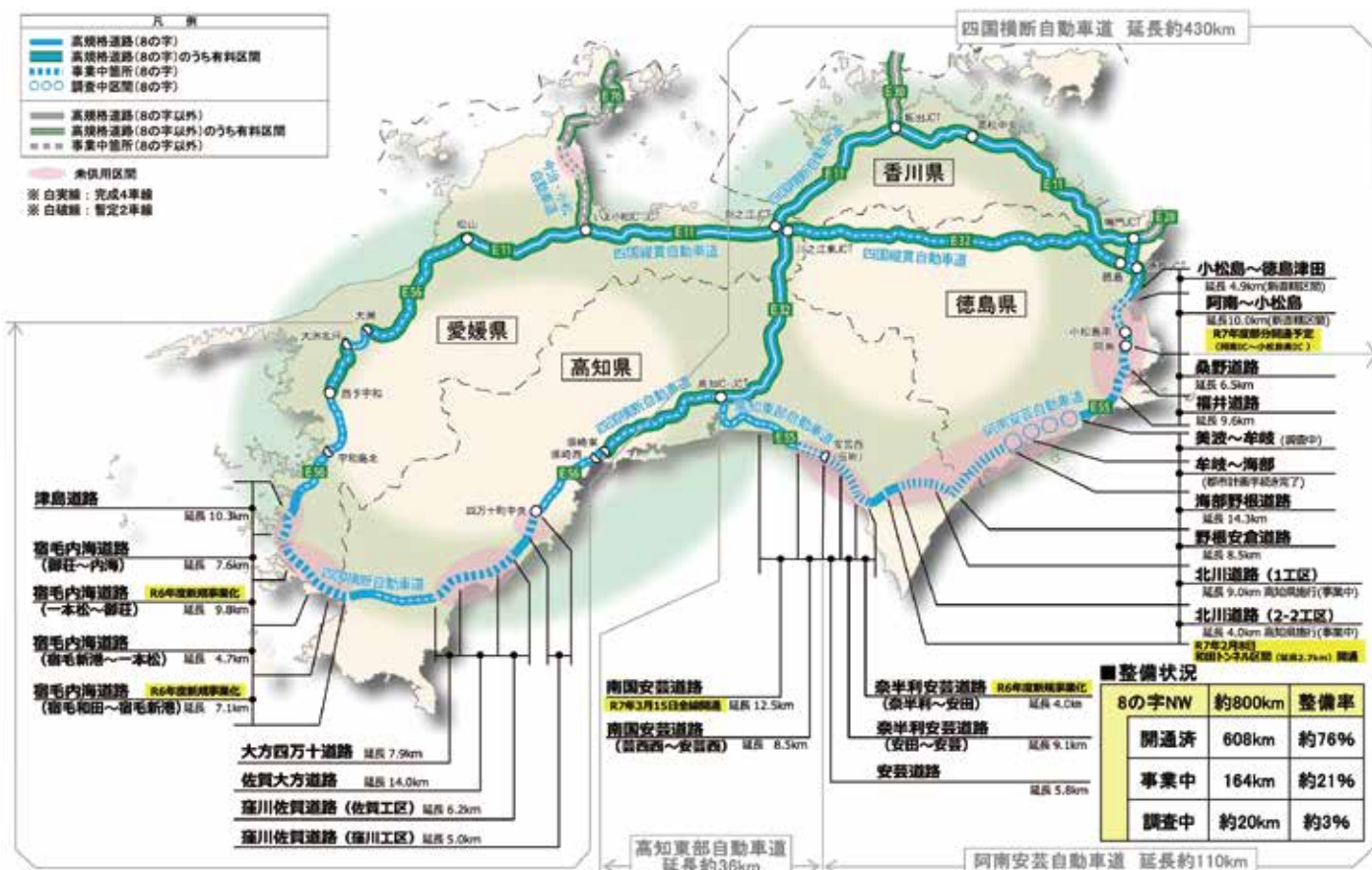
「四国8の字ネットワーク」のあゆみ

四国の高速道路ネットワークは、昭和41年制定の国土開発幹線自動車道建設法に定められた全国7600kmの予定路線において、四国4県の県庁所在地を結ぶ「エクスハイウェイ」が位置づけられました。

その後、昭和62年の第四次全国総合計画において全国1万4000kmの高規格幹線道路網に位置づけられ、さらに平成6年に阿南安芸自動車道が地域高規格道路に指定されたことにより、全線約800kmの「四国8の字ネットワーク」の計画が誕生しました。

これまで、昭和60年に四国初の高速道路が三島川之江ICと土居IC間で開通、平成12年に四国4県の県庁所在地を結ぶ「エクスハイウェイ」が完成しました。

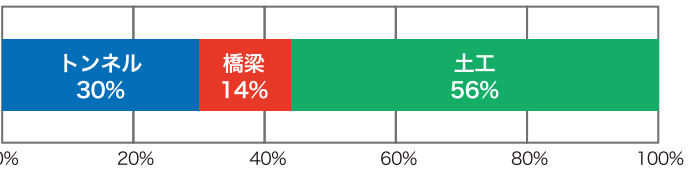
令和6年度には、高知県が施行する国道493号北川道路(和田トンネル区間)延長2.7kmが2月8日に、国が施行する南国芸芸道路高知龍馬空港ICと香南のいちIC間延長



▲「四国8の字ネットワーク」の整備状況(令和7年3月15日時点)



▲ 令和7年3月15日 南国安芸道路開通式典



▲ 窪川佐賀道路・佐賀大方道路・大方四万十道路における構造物比率(令和7年2月時点)

構造物	未着手	施工中	完成	合計
トンネル	9	2	3	14
橋梁(PC)	9	6	1	16
橋梁(鋼橋)	14	5	3	22

▲ 窪川佐賀道路・佐賀大方道路・大方四万十道路における構造物数(令和7年2月時点)

3・5 kmが3月15日に開通し、現時点までに全体の約76%にあたる60.8 kmが開通しています。

令和7年度には、徳島南部自動車道小松島南IC～阿南IC間延長3・2 kmが開通予定であり、「四国8の字ネットワーク」の完成に向けて着実に事業を進めています。

また、令和6年度には3つの区間が事業化され、愛媛県及び高知県内では全ての区間において事業着手となり、既に事業化済み区間もあわせ全体の約21%にあたる16.4 kmで事業を進めています。

今回は、高知県西南地域で重点的

に整備を進めている「国道56号窪川佐賀道路・佐賀大方道路・大方四万十道路」についてご紹介します。

国道56号 窪川佐賀道路・佐賀大方道路・大方四万十道路

高知県西南地域においては国道56号が唯一の幹線道路ですが、変化の多い海岸線や山岳地帯を通過しているため交通の難所を多く抱えています。

また、豪雨時の災害危険箇所や南海トラフ地震発生時には最大津波高34 mの津波が想定される黒潮町を通過し、さらに、県庁所在地や空港から離れた位置にあるなどさまざまな課



▲ 小黒川大橋完成イメージ

題を解消するため、「四国8の字ネットワーク」を形成するこれらの事業を進めています。

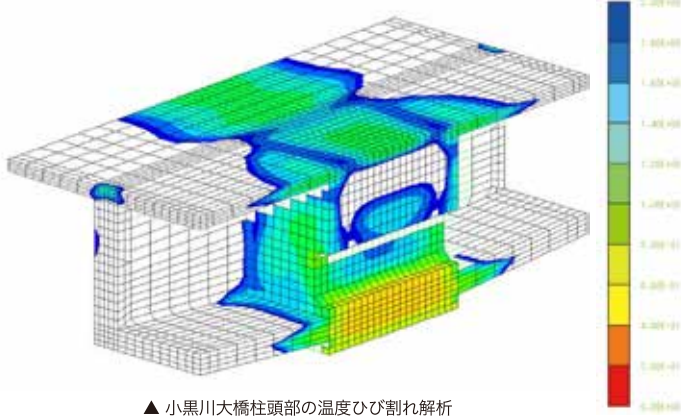
当該事業はその地理的状況からトンネルや橋梁の構造物が多く、約44%の構造物比率となっています。

現在、全線で工事を展開している「窪川佐賀道路」においては、令和6年度には、不破原トンネル(1831 m)及び平串トンネル(1337 m)が完成し、また、橋梁では平串大橋(193 m)の上部工や小黒川大橋(115 m)の下部工などの工事を進めています。

小黒川大橋は谷地形を跨ぐ架橋条件であり、桁下空間が大きく橋脚周辺の支保工設置が不可能なため、上部

工形式にPC2径間連続ラーメン箱桁橋を採用し、移動作業車による片持架設工法を計画しています。鉄筋コンクリート構造物の外部拘束による温度ひび割れが発生しやすいPC箱桁柱頭部の施工においては、温度ひび割れ解析や過密配筋となる橋脚柱頭部及び端支点(支承配置部)について3次元モデルによる干渉チェックを行い、品質確保を図ります。

当該区間では、まだ多くの橋梁が未着手ですが、高知県西南地域特有の地理的・地形的な現地条件を踏まえるとともに、発生確率が高まる南



▲ 小黒川大橋柱頭部の温度ひび割れ解析



▲ 国道56号通行止めなどの回避



▲ 立地企業の業種及び主な製品

業種	立地企業数	主な製品等
食品製造業	7社	ゆずオイル、ちりめんじゃこ、のり、アイス など
機械部品等製造業	9社	歯科材料、産業機械用部品、高圧発電設備 など
貨物輸送業	4社	一般貨物自動車運送業
その他	18社	コットン、ガーゼ、マスク、フィルム袋、積層フィルム など

▲ 高知県東部地域の企業立地の増加

おわりに

これまでの開通効果から

今後、さらなる愛媛県南予地域の高速道路延伸により、これまで以上の地域産業への好循環が生まれることが期待されます。

「四国8の字ネットワーク」への地域の期待は非常に大きなものがあります。国土強靱化、地域経済の好循環による地域の更なる飛躍を目指して、事業中区間の事業推進、未事業化区間の早期事業化により、1日も早い完成に向けて、引き続き肝胆を砕いて参ります。

「四国8の字ネットワーク」への地域の期待は非常に大きなものがあります。国土強靱化、地域経済の好循環による地域の更なる飛躍を目指して、事業中区間の事業推進、未事業化区間の早期事業化により、1日も早い完成に向けて、引き続き肝胆を砕いて参ります。



▲ 愛媛県養殖マダイの販路拡大

これまでの開通効果
高知県西南地域の国道56号は、急カーブ、急勾配、災害危険箇所が多く存在しており、交通の難所となっております。四国横断自動車道須

今後、事業中区間の開通により、並行する四国横断自動車道が代替路として機能し、地域の住民生活や経済活動等への影響を最小限に抑えることができました。

南海トラフ地震による津波浸水区間を回避することが可能となるなど、信頼性の高い道路ネットワークを形成して参ります。

